

※  は市旗です。市全体の話題の場合に表記しています。

鹿屋

## 私たちの宝 ～錦江湾の再生を目指して～

KANOYA



▲ホンダワラ属の海藻

6月3日・4日・9日の3日間、浜田地区永目から古江地区小島までの海岸線約19kmで、環境・生態系保全活動の一環として、海中の藻場のモニタリング調査が行われました。

これは、市や漁業関係団体などでつくる鹿屋市漁協アマモ会と鹿児島大学が共同で調査を実施したもので、保全活動は平成21年度から5年計画で行われています。

藻場は、小魚の生息地や水質浄化などの役割を持っていますが、ウニなどの食害や地球温暖化などの影響で現在、減少しています。漁業関係者は、「平成5年から藻場の再生に取り組んでいるため、今回の調査結果に基づく今後の藻場造成の取組に期待したい」と話してくれました。

鹿屋

## 男女共同参画社会の 推進に寄附金贈呈

KANOYA



6月24日、市役所で市民団体「つどいKANOYA」からの寄附金贈呈式が行われました。

「つどいKANOYA」は平成9年に設立し、男女共同参画社会の実現に向けて13年間活動してきましたが、今年4月で解散。「男女共同参画社会の更なる発展と推進のために役立ててください」と市に25万円の寄附金を贈呈しました。

鹿屋

## 自然のカーテン 市内全小学校に贈呈

KANOYA



5月15日、西原小学校でニガウリの苗やプランターなどの贈呈式が行われました。

これは、鹿屋ライオンズクラブが市内全小学校31校に、地球温暖化対策に役立ててほしいと贈呈したものです。贈呈式に参加した同校4年生約130人を代表して、松田鮎佳さんが「環境にやさしい西原小学校を目指し大切に育てます」とお礼を述べました。

輝北

## 香港の大学生と 平南小児童が交流

KANOYA



6月23日、輝北町の平南小学校で「児童と香港の学生との交流会」が行われました。これは、外国の文化を理解して国際交流を図ろうとカピックセンターの協力で行われたもので、今年で5回目。当日は、同校の全校児童12人と香港の学生14人が文化の紹介やお互いに歌を披露したほか、一緒に給食を食べるなどして楽しそうに交流を深めていました。

鹿屋

## 芸術に触れ、感動

KANOYA



6月23日、東原小学校で「青少年のための芸術鑑賞事業」が行われました。

これは、芸術に対する興味・関心を喚起するとともに、芸術鑑賞能力の向上と豊かな心を育てるために行われたもの。当日は、鹿児島オペラ協会や鹿児島県争曲会が見事な演奏を披露し、鑑賞した全校児童123人は、美しい歌声と音色に聴き入っていました。

鹿屋

## 市役所でお茶のPR



5月19日から21日までの3日間、市役所1階ロビーで、新茶まつりが行われました。

これは、鹿屋市茶業青年緑萌会がお茶の消費拡大や地産地消の推進、銘柄確立のために実施したものです。緑萌会のメンバーが丹精込めて生産した深蒸し煎茶は、天候に恵まれ質が良く大好評で、市役所を訪れた多くの人々が立ち寄って新茶の味を楽しみました。

鹿屋

## 肝属茶のブランド化 目指す



5月14日、J A 鹿児島きもつき東部支所で「肝属地区茶品質向上共進会」が行われました。

これは、肝属地区の上級茶生産に向けた意識醸成や生産・製茶技術の向上を図り、肝属茶のブランド化を目指して行われているもの。当日は、深蒸し煎茶、普通煎茶、玉緑茶を含む4部門で、県農業開発総合センター職員等による審査が行われました。

吾平

## ふるさとを想う

AIRA



6月13日、東京都港区の芝弥生会館で、「第15回関東地区吾平会総会」が開催されました。当日は、関東地区に住む吾平出身者など約150人が参加して、特産品を買い求めたり、「ふるさと」の話題で盛り上がりました。

また、「故郷の自然を守ろう！」と、出席者から募金を募り、集まった43,900円を「始良川河川愛護会」に寄附しました。

鹿屋

## ウミガメの卵を確認

KANOYA



▲ウミガメが上陸した跡

6月6日に高須海岸で、10日と26日に浜田海岸で、アカウミガメの産卵が確認されました。

産卵場所は満潮の時刻になると海に沈む可能性があるため、高須小学校に130個、浜田小学校に98個と128個、合計356個の卵をウミガメ保護監視員などによって移設・保護しました。ふ化は8月中旬ごろとみられ、ふ化後は帰海観察会が行われる予定です。

鹿屋

## 「のうこうミルクバー」発売！！



鹿屋農業高校がセイカ食品と共同で開発したアイス「のうこうミルクバー」の商品開発&販売キャンペーンが、7月1日、生協コープかごしま鹿屋店で行われました。これは、同校生徒が生産した牛乳を使用しており、味やパッケージの図案、商品名などに生徒たちが携わり、完成したものです。

生徒たちは「地元の皆さんから親しまれている“のうこう”の呼び名を商品にもつけました。地元の皆さん、ぜひ、食べてください」とPRしていました。

「のうこうミルクバー」は、限定2万個を県内の生協コープかごしまで販売しています。